

博物館における地域性種苗を用いた雨庭整備

キーワード：雨庭，地域性種苗，市民工事，博物館

ひとはくの雨庭

兵庫県立人と自然の博物館（通称：ひとはく）は、兵庫県三田市にある自然史系博物館である。ひとはくでは、2022年11月にオープンした新収蔵庫棟「コレクションナリウム」の外部空間に以下のコンセプトのもと雨庭を整備した。

全体コンセプト

「地域植物でつくる生物多様性に配慮したインクルーシブな雨庭」

コレクションナリウムの雨庭づくりで創出しようとする価値

- 雨水を貯留浸透させるグリーンインフラとしての機能とその評価
- 雨水を楽しむという市民文化の再構築
- 地域性種苗を用いた作庭技術の構築
- あらゆる人びとが地域の里山の植物に触れられる場と機会
- 住宅および企業による緑化・庭づくりのモデルケース
- 博物館の外部空間としての生涯学習の場としての機能

雨庭づくりのプロセスに関する基本的スタンス

市民工事の実践

- ひとはくのユーザーや地域住民と整備作業を実施
- 博物館セミナーの機会を活用した雨庭マネジメントの主体形成
- 兵庫県内の造園業者と連携

自然再生・流域治水・鑑賞性の融合

- 三田市内で採集された植物の種子から苗を育成
- 駐車場の路面の排水をすべて集約して貯留・浸透
- 雨水と地域性種苗を庭の要素としてみせる造園技術の確立

変化を楽しむ庭づくり

- 10年かけて庭をじっくり育てながらつくる
- 整備当初は、石・土・水の組み合わせをメインに鑑賞
- 植物の成長に伴って景観が形成（草地2～3年、里山の植物3～5年）

作庭・管理における3つのゾーン

屋外展示ゾーン

- 深田公園や三田市内でみられる里山や草原の植物を「誰もが気軽に」観察できるゾーン

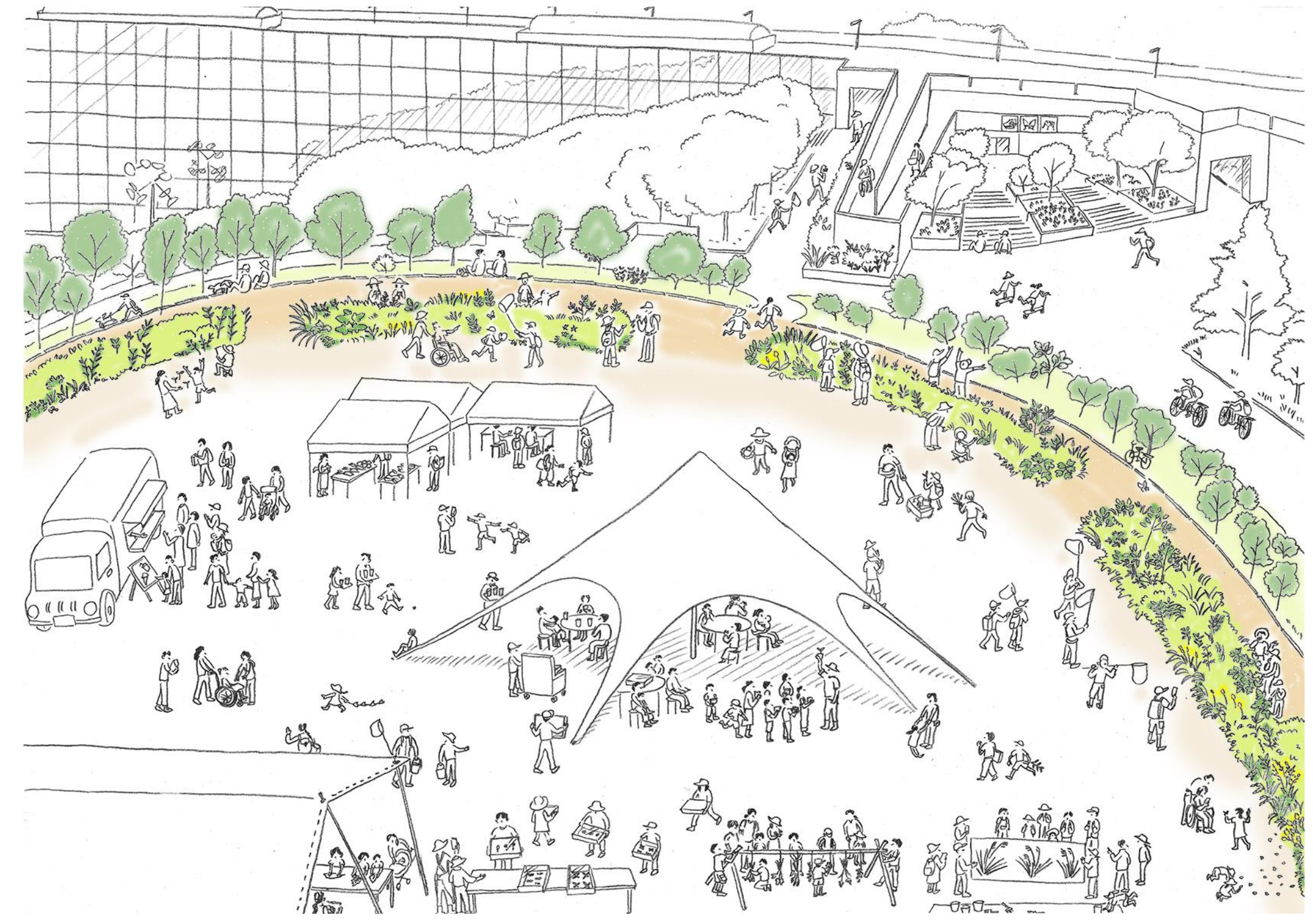
- 視覚だけでなく、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五感で楽しめるゾーンを形成

セミナー活用ゾーン

- セミナー受講生が地域性種苗を用いた雨庭づくりについて学びながら整備
- 2022年度、2023年度の2年間にわたって、2つのエリアを整備
- 2023年以降は維持管理や手入れについてのセミナーを継続的に実施

連携団体活用ゾーン

- 連携活動グループがそれぞれの関心によって整備・維持管理・活用



コレクションナリウムの雨庭のイメージパース

2020年度

建築および外構の詳細設計
地域性種苗の種子採集・育苗

2021年度

建築および外構の整備工事
地域性種苗の種子採集・育苗

2022年度

雨庭部分の客土・土壌改良
セミナーによる雨庭の整備

2023年度

セミナーによる雨庭の整備

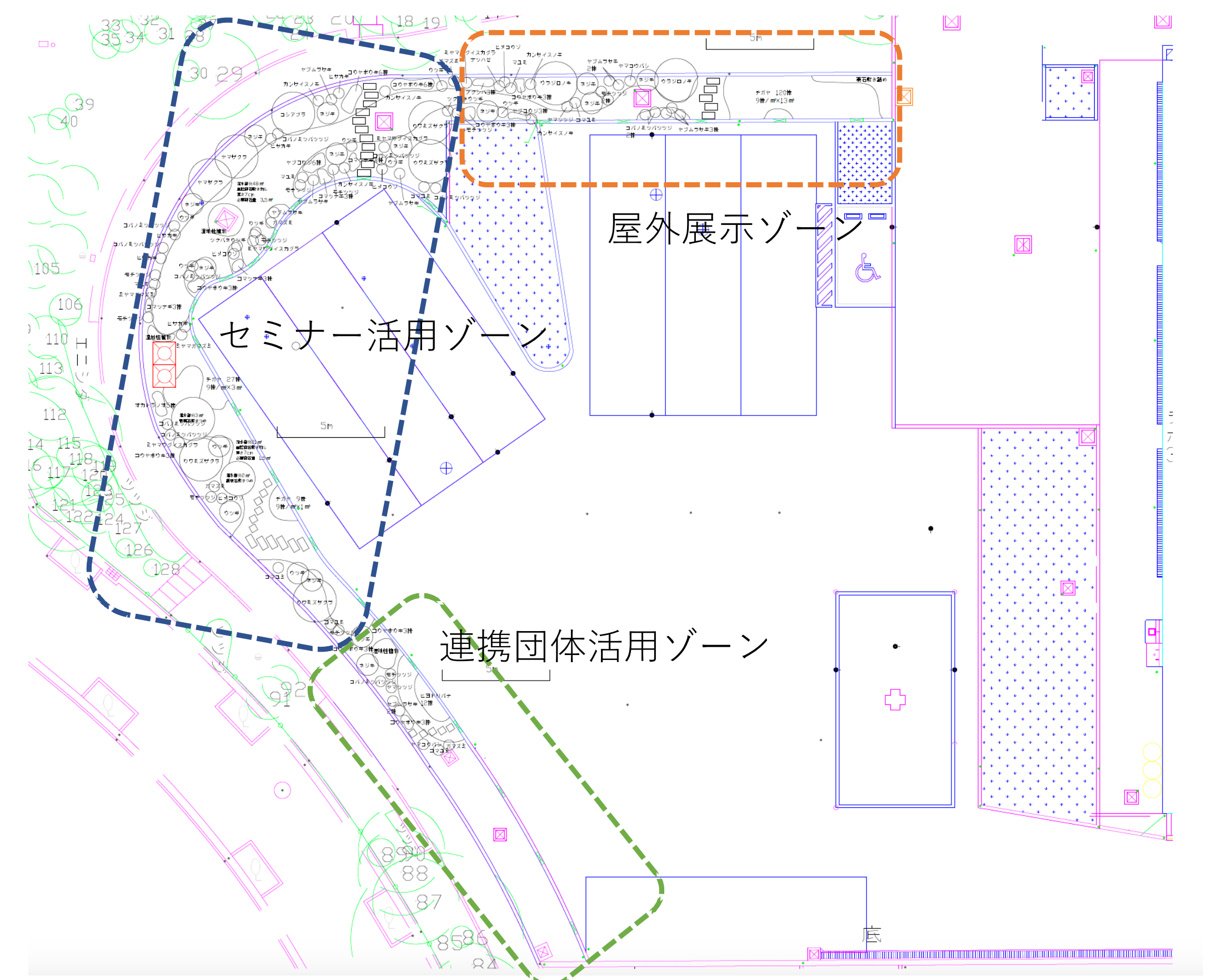


*冊子のPDFファイル



雨庭整備のスケジュール

地域性種苗に関する取り組み



雨庭の平面計画図（整備面積約150㎡）

セミナーを通じた雨庭の整備プロセス

セミナーの内容（同内容で2年実施）

- 第1回「雨庭と地域在来植物」 座学
- 第2回「地域在来植物の観察」 座学＋観察
- 第3回「雨庭の土づくり」 座学＋演習
- 第4回「雨庭のデザイン」 演習
- 第5回「雨庭の施工（土木編）」 演習
- 第6回「雨庭の施工（植栽編）」 演習

受講生の数：25名（2022年）、10名（2023年）
連携団体：希少植物研究会、クラーク記念国際高校

- 受講生によるデザイン結果については上の平面図を参照
- ホームセンターで手に入る安価な資材だけを使用
- 単粒度碎石と栗石は近隣の建材店で地域産を購入



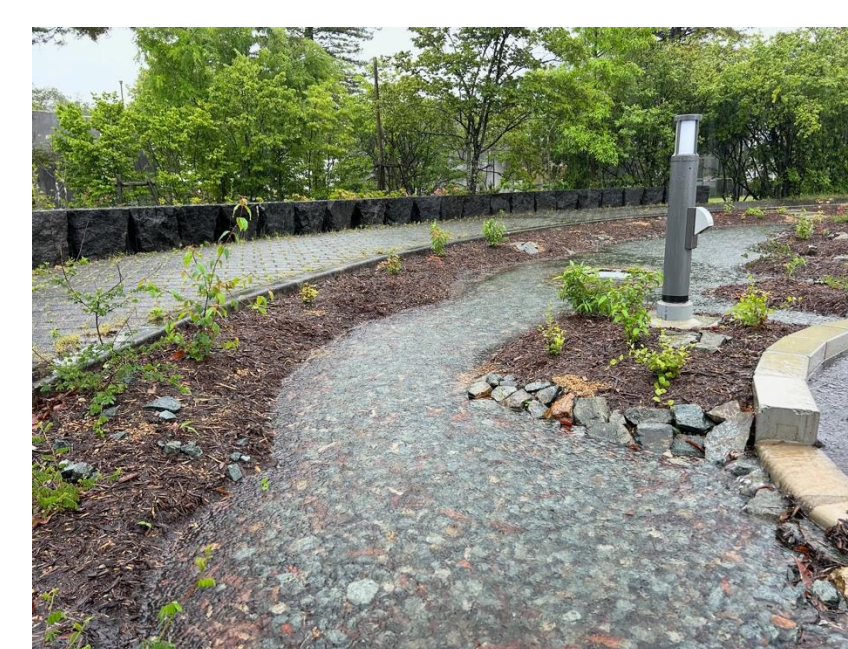
平板の据付



植栽作業



栗石の据付



整備後1年目



整備後2年目

連絡・問い合わせ：takada@hitohaku.jp（兵庫県立大学 高田知紀）